

国立大学法人三重大学学長の評価（業務執行状況の確認）について

令和 8 年 3 月 1 3 日
学長選考・監察会議

国立大学法人三重大学学長選考・監察会議は、国立大学法人三重大学学長選考・監察会議規程第 2 条第 1 項の規定に基づき、学長の評価（業務執行状況の確認）を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

令和 7 年度第 1 回学長選考・監察会議（令和 7 年 6 月 2 0 日開催）、第 2 回学長選考・監察会議（令和 7 年 9 月 1 9 日開催）、第 3 回学長選考・監察会議（令和 8 年 1 月 2 3 日開催）において、次の資料及び学長、監事からの意見聴取等に基づき評価を行った。

- ・令和 5 年度計画に対する取組実績
- ・令和 6 年度計画に対する取組実績
- ・令和 5 年度における学長の業務執行状況（監事による監査報告書）
- ・令和 6 年度における学長の業務執行状況（監事による監査報告書）
- ・令和 5 年度国立大学法人ガバナンス・コードの各原則に対する適合状況等
- ・令和 6 年度国立大学法人ガバナンス・コードの各原則に対する適合状況等
- ・三重大学の課題（重点課題）が確認できる資料
- ・所信表明資料

2. 確認の結果

学長の業務は、適切に執行されていると判断する。

委員評価結果

総括意見欄（1/2）

○学長の業績は総じて高く評価できる。医学系出身でありながら全分野において積極的なリーダーシップを発揮し、人文系や教育系の教職員への配慮も行き届いていると認められる。また、学外関係者（県内首長等）との積極的な意見交換を実施し、その情報を大学執行部へ適切にフィードバックしている点、および会議において率直な意見交換を行う姿勢も評価できる。

○昨年度の会議で議論されたダイバーシティ推進に関して、ダイバーシティ&インクルージョン推進体制が2025年度に立ち上がったことにより、今後の大きな前進が期待される。

○年度計画に対する取組実績は目標を概ね達成しており、順調に業務執行されていると判断できる。今後も、高いリーダーシップを発揮され、「三重大学ビジョン 2030」で掲げる4つの重点領域において、高いレベルでの目標達成に導いていくことが期待される。

○伊藤学長の強いリーダーシップと、就任5年目までの取り組みに敬意を表する。常に基本理念と目標に立ち返りながら業務改善や新たな企画に取り組む姿勢は、三重大学の全体像に大きく反映されているものとして高く評価できる。また、新聞やテレビで大学の取り組みを目にする機会が増えたと実感している。国立大学として、世界を牽引する先端的な研究成果も期待されるため、学生ならびに若手教員・研究者の国際化推進には更なる強化を期待する。附属病院の経営に関しては大学全体の財務に与える影響が大きく、引き続き慎重なる監察が必要である一方、特定機能病院として高度な医療の提供、研究、人材育成を期待する。今後も、企画経営会議や経営戦略会議を重層的に重ね、短期ならびに中・長期的な課題に対する改善への取り組みの加速を期待している。

○数値目標の達成に向け、現場の教職員の負担軽減に配慮した取組や、「評価疲れ」の生じない仕組みづくりを進めることで大学全体の活性化につながると感じる。

○全ての事業に積極的に取り組まれ、成果や実績もあげられている。地域のニーズに応えようとするトップの姿勢が大学全体に浸透してきていると感じられる。まだ目標を達成されていない事業もあるが、引き続きスピード感を持って取り組まれることを期待する。

○学長のリーダーシップにより、地域社会に開かれ、地域と共生する大学としての姿勢がより鮮明になった4年間と評価できる。社会人入学者や環境人材育成事業の目標達成、地域企業・自治体との連携強化、学生主体の地域活動や資格取得支援など、地域に根差した人材育成と知の創造が着実に進展していると感じる。また、地域拠点サテライトの新設や救急医療体制の強化、地域教育支援など、地域課題の解決に向けた具体的な取り組みも高く評価できる。更に、多面的評価の入試導入やリカレント教育の拡充は、地域の多様なニーズに応える柔軟な大学運営の象徴と言える。今後は、現場の声を活かした運営体制や学生支援の更なる充実を図り、地域社会と共生しながら、地域に根差した大学としての役割を一層果たしていくことを期待する。

○学長の主導の下で様々な改革が進められた点は、一定の評価ができる。しかし、一方で、大学としての一貫した方向性に基づく取り組みは十分とは言えない。学生数の減少に伴い大学機能が縮小する可能性が高まることが予想される中で、三重大学を将来どのような組織として位置づけるのか、早急に明確化する必要がある。大学の研究力の現状分析や自治体・企業との連携状況を踏まえ、コンサルティング会社の活用も含めて、三重大学の組織づくりの方向性を速やかに策定することを望む。

○学長の業績は全体として高く評価できる。特に、社会との共創において、地域拠点サテライトが県内全域に設置され、目標を上回る地域課題発見・解決プロジェクトが実施されている点は、顕著な成果として高く評価できる。今後も、これらの取組のさらなる発展が期待される。

○第4中期目標・中期計画に基づき業務が着実に執行され、成果を上げていると判断できる。特に、三重大学の魅力の情報発信やリカレント教育の推進、罹災学生への経済的支援の実施、科研費採択数増加への取り組み、研究費の効率的な配分、地域拠点サテライトを活用した課題発見解決プロジェクト、中堅若手教員を学長補佐に登用した次世代経営人材教育、附属小中学校の改修、財務内容改善の取り組みが評価できる。大学全職員を一つにまとめて取り組みを推進する強いリーダーシップは素晴らしく高く評価できるため、引き続き尽力することを期待する。

○伊藤学長の卓越したリーダーシップは、教育・研究・地域連携・国際化・医療・経営のあらゆる領域で顕著な成果を出している。地域拠点整備、国際教育の深化、研究支援制度の体系的強化、URA配置による産学官連携の加速など、施策はいずれも戦略性と実効性を兼ね備えており、財務基盤強化、広報力の飛躍的向上、附属病院の高度救命救急センター指定、医療安全体制の成熟といった実績も含めて、多面的に大学の社会的使命を高い次元で果たしたと言える。伊藤学長の取り組みは、大学の価値を大きく高め、三重大学の未来を力強く切り拓くものであると評価できる。

○コロナ禍終息後、教育と研究、および管理運営にこまかく配慮し、円滑かつ迅速に進める学長のリーダーシップを基にしたガバナンス体制の効果が認められる。学生や若手教員の育成、中堅・女性教職員の積極登用、リカレント教育センター等機能強化部門の充実など、社会の情勢やニーズを見据えた組織改革に取り組み、現状にとどまらない成長の礎が着実に形成されていると感じる。また、18歳人口減少に伴う今後の大学構想について様々な場面で議論を実施し、構成員の意識改革や将来構想に着実に取り組んでいる点は非常に印象的である。

総括意見欄 (2/2)

○学長としての業務執行は全般的に順調に行われており、多くの課題に対して果敢に取り組み成果を上げている点は十分に評価できる。一方で、新たな改革等を行う際に、大学構成員との認識の溝を十分に埋められていない点があることが問題点として挙げられる。一例として、「行動する力」の具体化が部局では全く議論されておらず、個々の教員のイメージもバラバラなままであること、概算要求の内容が学部への影響があるにも関わらず事後的に報告される点など、部局レベルでの議論が不十分なまま新たな対応が方針化されることが多いため、大学構成員が同じ方向を向くためには、スピーディさに欠けるとしても、方針化・実施の段階でしっかりと議論をすることが必要であると感じる。

○精力的に風通し良く運営されている中、特に研究の活性化方策の充実が評価できる。チャレンジ支援による科研費獲得数増加策による研究力の底上げと、卓越型リサーチセンターならびに重点リサーチセンター等への手厚い支援による卓越研究の戦略的活性化というバランスの取れた研究支援が行われた。また、大型予算を積極的に獲得すべく、定期的なリサーチコアセミナーの開催等により具体的なビジョンを見定め、URA を有効活用し、執行部が中心となり教育・研究プロジェクト推進を図るという方式を定着させた。半導体・デジタル未来創造センターの活発な活動と地域貢献への期待、女性教員増員に対する強い意志、附属病院高度救命救急センターにおける救急患者受け入れ拡充、リカレント教育の充実など、全体として積極的に素晴らしい大学運営であったと高く評価できる。

_____ は評価意見

..... は改善点・問題点意見